



天然記念物を訪ねて

(1) 東日本

古くから人々に親しまれてきた景勝の地が、そして不動の如く見える大地が、実は生きている地球の様々な活動記録の集積である事を、地質学は我々に教えてくれる。その中でも特筆すべき地形を持つ地域や学術的に重要で保護を要する露頭が、文化財として天然記念物に指定されている。これら地質鉱物天然記念物は、国指定の206件に都道府県指定のものを加えると、総数は439件に及ぶ。

この特集では、北海道から中部地方までの東日本にある天然記念物について、本文は簡単な記述で211件の全てを網羅している。ここではその一部と名勝のひとつをカラー写真で紹介する。詳しくは本文を参照されたい。

(地質ニュース編集委員会

佐藤興平)



1. 長壽(埼玉県秩父郡 国指定)

関東山地の三波川変成帯を横切って北に流れる荒川の渓谷、日本の高圧型変成帯を代表する三波川帯の名称は、この北西にある群馬県鬼石町の旧三波川村に由来する。下の写真は「虎岩」と呼ばれるスティルブノメレーン-石英片石。撮影：佐藤興平



2. (上)昭和新山
(北海道有珠郡 国指定)

1944-45年に有珠山東麓の
畑の中に出現したデイサイトの
溶岩円頂丘で、特別天然記
念物。

撮影：佐藤興平(1976年10月
夕刻)



3. 妙義山

(群馬県碓氷郡-甘楽郡
国指定名勝)

上毛三山のひとつ妙義山に
は、5百万年ほど前の火山体
が解析されてできた絶壁や岩
塔が発達し、とくに金洞山南
面の石門群付近は観光地とし
て親しまれている。地質館物
天然記念物には含まれていな
いが、国の名勝に指定されて
おり、群馬-長野両県にまた
がる妙義荒船佐久高原国定公
園の一部を構成する。写真は
第四石門。撮影：佐藤興平



4. (上)横山・楡原衝上断層
(岐阜県—富山県 国指定)

神通川上流の岐阜—富山両県境付近。写真は横山衝上断層で、左上が飛騨片麻岩、右下が手取層群の砂岩。撮影：岐阜県立加茂高等学校 鹿野勘次氏



5. (右)瀬林の澱痕(群馬県多野郡 県指定)

関東山地の山中地溝帯白亜系瀬林層の澱痕、さざなみ岩。露頭上半部の穴は恐竜の足跡と解された。撮影：佐藤興平(1990年)



6. 吹割溪ならびに吹割瀑
(群馬県利根郡 国指定)

利根川上流片品川の追貝付近の溪谷で、中新世の溶結凝灰岩が広く露出。写真の吹割瀑は長さ数10m、最大落差7m。撮影：利根村教育委員会

7. 碁石海岸(岩手県大船渡市 国指定)

末崎半島南端部の白亜紀の砂岩・頁岩互層からなる海食地形のひとつ、穴通磯の洞穴。近くの碁石浜には、黒色頁岩のレンズ状礫が碁石を敷きつめたように堆積して、その名の由来となっている。撮影：石原舜三氏





8. 清津峡(新潟県南魚沼郡湯沢町-中魚沼郡中里村 国指定)
信濃川支流の清津川上流にある全長約20kmの峡谷, 中新統中に貫入した石英閃緑ひん岩が河食を受けてきたもので, 比高50-60mの峡谷壁に柱状節理が見られる, 撮影: 深沢製作所(東京)社長 高須勝明氏